

病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

再生医療細胞調整センターについて

再生医療細胞調整センターは、高度な技術を要する細胞調整(再生医療に必要な幹細胞・前駆細胞・体細胞などの調整および製造)を行うことが可能な、認可されたGCTP基準を持つセンターです。

当センターは徳島大学病院・中央診療棟4階の中央手術部・集中治療部に直結する場所に位置し、センター内には各種幹細胞由来細胞製剤および免疫細胞療法用細胞製剤・体細胞由来細胞療法製剤の加工・製造を行うために、2つの異なるグレード環境下の培養施設を完備しています。設備内のすべての環境モニタリングは電子制御され、24時間体制で連続モニタリングが可能なほか、緊急時対応に備えリモートモニタリング監視システムおよびアラートシステムを強化することによって万全な安定稼働を目指しています。本施設は、平成27年4月24日付で、中国四国厚生局より「再生医療等の安全性の確保等に関する法律第35条第1項」の規定による特定細胞加工物製造施設としての許可を取得しています。

この度、センターとして運営体制が整備され、細胞調整を開始することと致しました。令和4年6月28日には開設記念講演会が開催され、医学部長・病院長ご出席のもとで、予定されている医療が紹介されたほか、再生医療分野のトップランナーの大阪大学・心臓血管外科・宮川 繁教授に、再生医療の最前線について特別講演を頂きました(写真1)。

当センターにおいては、中四国の大学病院および国公立病院で初となる多血小板血漿治療(難治性皮膚潰瘍に対する先進的保険診療。形成外科・美容外科)が令和4年8月12日より開始されたほか、世界初の試験となる脂肪由来幹細胞より分化誘導したinsulin-producing cell自家移植(医師主導治験。消化器・移植外科)がAMEDのバックアップのもと計画されています。その他先端的再生医療研究が順次進んでおり、四国における再生医療拠点となるべく活動を展開・情報発信して参ります。



(写真1)

再生医療細胞調整センター開設記念講演会における大阪大学心臓血管外科 宮川繁教授の特別講演

再生医療細胞調整センター センター長 島田光生

上田副病院長に趣味や特技について寄稿いただきました

副病院長(看護担当)の上田です。

7月上旬、院内メッセージ便で原稿執筆依頼書が届きました。それは院内広報誌の職員の趣味や特技などを紹介するコーナーの執筆依頼でした。それを見たとき私は「困った、今の私には皆様に紹介できる、趣味という趣味、特技という特技がない」と思わず頭を抱えてしまいました。そして、早速、広報・企画係の方に相談しました。すると、「趣味や特技でなくても、看護部長の人となりが見える内容でもいいですよ」との返事を頂きました。ということで皆様に私のプライベートを少し紹介致します。

私には3人の娘がいます。23歳、20歳、17歳とすっかり大きくなりました。3姉妹は、私にそっくり、瓜二つではなく瓜四つ状態です。大きくなった娘達ですが、私が帰宅すると走り寄ってきて、しばらくのハグタイムがあります。一番に抱きつくのは私とばかり競いながら飛びついてきます。「もう大きいのに」と嫌がる振りをしていますが、内心にんまりしています。ハグタイムは私の何よりの癒し時間です。そして、娘達の影響なのか、ジャニーズファンです。特に嵐ファンで娘たちとコンサートに行ったことがあります。最近では、Snow ManとジャニーズWESTのファンとなり、メンバー全員フルネームで答えることができます。これは、特技になるのでしょうか。

娘達と一緒にショッピングに行ったり、映画を見たり、ジャニーズのDVDやYouTube配信を見たりと娘と過ごす時間が、私のリフレッシュ時間であり、趣味の時間となっています。ちなみに夫も娘達のことが大好きで3姉妹にベタベタしています。

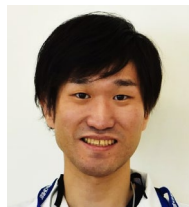
責任重圧、緊張過多な毎日で心折れそうになる看護部長職ですが、家族(夫・両親も)に感謝しつつ、娘達と過ごすかけがえのない時間を大切にしながら頑張っていきたいと思っています。

副病院長(看護担当) 上田美香



5年前、阿波踊りを見に行った時

令和4年度 新採用職員についてご紹介します



むし歯科
助教 米倉 和秀

令和3年9月よりむし歯科に赴任いたしました米倉和秀と申します。京都府出身で平成23年に徳島大学を卒業後、徳島大学病院にて研修医を修了してから都内の勤務医を経て東京医科歯科大学大学院博士課程を修了しました。専攻は保存修復学で、修復物と歯質を一体化させう蝕の再発を予防する接着歯学を学んできました。指導していただいた保坂先生が徳島大学再生歯科治療学分野教授に就任されたのを期に呼んでいただき8年振りに徳島へ戻って参りました。懐かしい徳島大学は外来と研究室が新しくなっており、充実した設備の素晴らしい環境で臨床・研究・教育に毎日楽しく取り組ませていただいております。また、私生活においても妻は徳島出身のため徳島大学への赴任をとても喜んでおり、徳島での新生活を満喫しております。母校に貢献できるよう精一杯頑張りますので、今後ともよろしくお願い致します。



地域脳神経外科診療部
特任講師 原 慶次郎

令和4年4月より地域脳神経外科診療部特任講師に赴任しました原慶次郎と申します。新規採用職員として挨拶させて頂いておりますが、実はすでに令和2年10月から脳神経外科助教として赴任しています。平成14年に徳島大学を卒業し、そのまま徳島大学脳神経外科医局に入局しました。関連病院で勤務し、当院に再赴任するまでは川崎医科大学附属病院(岡山県倉敷市)で5年勤務しておりました。専門は脳腫瘍です。

大学時代はテニス部に所属し日焼けで真っ黒でしたが、就職後はほとんどテニスもしていませんので、テニス部であった形跡は(体型も含めて)消失しています。かわりに最近は釣りを楽しんでいます。堤防からの小物専門です。新型コロナが落ち着けば、健康のためにもテニスも再開したいと思っています。

日々の診療業務においても至らぬ処が多々あるかと存じますが、何卒ご指導宜しくお願い致します。



眼科
医員 田原 裕子

令和4年4月に眼科に入局いたしました、田原裕子と申します。

徳島大学卒業後、鳴門病院で2年間初期臨床研修をした後、蔵本に戻って参りました。

眼科は、外来・手術・病棟をすべて一年目から経験させていただけるので日々学ぶことが多く、未熟ではありますが充実した毎日を送っています。

趣味はドラマやバレーボール鑑賞で、仕事のあとに美味しいものを食べながらテレビを見たり、休みの日は地元の香川県までドライブに行ったりしてリフレッシュしています。

1日でも早く立派な眼科医になれるよう努めて参ります。

どうぞよろしくお願い致します。



患者支援センター
MSW 近藤 佳那

令和4年4月より患者支援センター(患者支援係)に配属となりました、近藤佳那と申します。その中でも、医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker)の役割は、医療機関などにおける福祉の専門職で、病気になった患者さんやそのご家族を社会福祉の立場からサポートすることです。私は、主に“がん相談”を担当しています。治療過程や患者さんを取り巻く環境は多岐に渡り、常にニーズは変化していきます。患者さんの現在からその後の生活を一緒に見据え、最適な環境調整ができるよう支援を行っていきたいと思います。

まだまだ未熟ではありますが、医療ソーシャルワーカーとして成長できるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



西病棟5階
看護師 片岡 瑞季

令和4年4月に入職し、西病棟5階に配属となりました、片岡瑞季と申します。当病棟は、眼科・皮膚科・循環器内科・脳神経内科の混合病棟であり、手術やカテーテルアブレーション治療・ステロイドパルス療法・免疫グロブリン療法・化学療法などの治療を必要とする、様々な疾患を持った患者さんが入院されています。

日々、看護師としての責任感と自身の未熟さを痛感していますが、先輩方の丁寧なご指導と患者さんからの優しいお言葉を励みに、業務を行っています。目まぐるしい毎日ですが、休日は運動やドライブなどで気分転換を図っています。

患者さんが、安心・安全に入院生活を送ることができるように、正しい知識を持って丁寧に関わり、寄り添う看護師をめざして、日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。